

寢屋川市水安全計画

(概要版)



寢屋川市上下水道局

水安全計画とは

「水安全計画」は、安全な水道水の供給をより確実にする仕組みです。

食品製造分野で確立されているHACCPの考え方を参考としています。

HACCP (Hazard Analysis Critical Control Point)

HACCPとは、食品の製造・加工工程のあらゆる段階で発生する恐れのある微生物汚染等の危害をあらかじめ分析 (Hazard Analysis) し、その結果に基づいて、製造工程のどの段階でどのような対策を講じればより安全な製品を得ることができるかという重要管理点 (Critical Control Point) を定め、これを継続的に監視することにより製品の安全を確保する衛生管理の手法のことです。

水安全計画の策定について

水質の管理については、水源から蛇口までの過程において、水源の汚染事故や給水過程での濁水の発生など、水質に悪影響を及ぼす様々な要因が存在しています。それらの危害 (リスク) を未然に防ぐには、管理方法や監視方法の強化、また想定されるあらゆる危害ケースを抽出し、対策を講じなければなりません。

前文で示したHACCPの考え方を取り入れ、安全で良質な水道水を安定的に供給していくことを目的に国のガイドラインに準拠し、水安全計画を策定しました。

目的と効果

目的

安全で良質な水道
水を安定的に供給
する

効果

- 安全性の保証
- 「良質な水道水」の供給
- 関係者の連携強化

危害（リスク）の分析と対応

水質に影響を及ぼす可能性のある危害（リスク）について、発生頻度や発生した場合の影響の大きさ（被害程度）の分析を行い、危害（リスク）レベルを設定したうえで、危害（リスク）が発生した場合の影響を最小限とするための対応を設定します。

また、その対応については、危害（リスク）レベルに応じて管理対応表に基づき行っていくものとしています。

<代表的な危害（リスク）>

配水場等・・・停電、落雷による配水ポンプの停止、長期使用による劣化
蛇口まで・・・管路の劣化、各種工事の影響、貯水槽の管理不足



<影響を受ける主な水質項目>

臭気、味、濁度、色度、残留塩素など

検証と見直し

水安全計画が常に安全な水道水を供給していくうえで、十分なものになっているかを確認し、各種記録等から問題点、課題を抽出し必要であれば見直しを行います。